

# 序

現在、大和西大寺駅の西南に伽藍を構える西大寺は、奈良時代後半に造営された寺院で、造営当初は平城京右京一条三・四坊に31町という広大な寺域をもっていたと伝えられています。また、その北側には、右京北辺と呼ばれる地域が存在していました。いずれも、現在は商業地や住宅地となっており、近年も大型マンションの建設など、開発が相次いでいる地域です。

本書は、西大寺食堂院跡と比定される右京一条三坊八坪、および右京北辺三坊三坪の発掘調査の概要報告書です。調査では、西大寺食堂院の主要堂舎や、両坪の中間を通る大路などの遺構を検出し、これまでまとまった資料が存在しなかった西大寺食堂院や北辺坊について、多くの重要な成果を得ることができました。また、遺構のみならず、木簡をはじめとする数多くの遺物が出土し、これらは古代史研究をすすめるための貴重な資料となることでしょう。

なお、今回の発掘調査および報告書作成にあたってご協力とご援助を賜りました、東京建物株式会社、東急不動産株式会社、近鉄不動産株式会社、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、(財)元興寺文化財研究所、近隣の自治会をはじめとする関係諸機関の方々に対しまして、厚く御礼申し上げます。

2007年3月

独立行政法人文化財研究所

奈良文化財研究所

所長 田 辺 征 夫